

農業普及だより

大地のみのり



秋田県農林水産フォーラムにて「農林水産大臣賞」受賞！ 農事組合法人細越牧場(三種町)

令和4年度秋田県農林水産フォーラムにおいて、農事組合法人細越牧場（三種町）が「ふるさと秋田農林水産大賞」「農林水産大臣賞」を受賞しました。

規模拡大に合わせてICT機器を導入し個体管理に努めているだけでなく、地域の耕種農家・園芸農家と連携した「耕畜連携」体制の整備を図りながら、県内を代表する酪農家としての取組が評価され、顕彰の運びとなりました。

令和5年
2月1日

No.

122

編集・発行 山本地域振興局農林部農業振興普及課
電話 0185-52-1241 FAX 0185-54-8001
URL <http://www.pref.akita.lg.jp>

目次

- P 1 「ふるさと秋田農林水産大臣賞」受賞
- P 2～3 令和4年度の生育概況と来年度に向けて
- P 4 新農業士紹介
YAMABICO
インボイス制度について

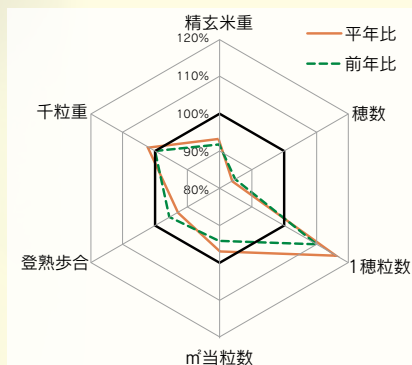
令和4年の生育概況と

水稲

◆生育概況

【収量調査結果（あきたこまち・管内9地点）】

今年度の10aあたり精玄米重は、平年の93%の549kg/10aとかなり少なくなりました。1穂着粒数が平年の116%と多かったものの、穂数が平年の84%と大幅に少なかったため、㎡あたりの着粒数は平年の97%とやや少なくなりました。また、千粒重は平年と比べてやや多かったものの、登熟歩合は平年よりかなり低い80.7%となりました。



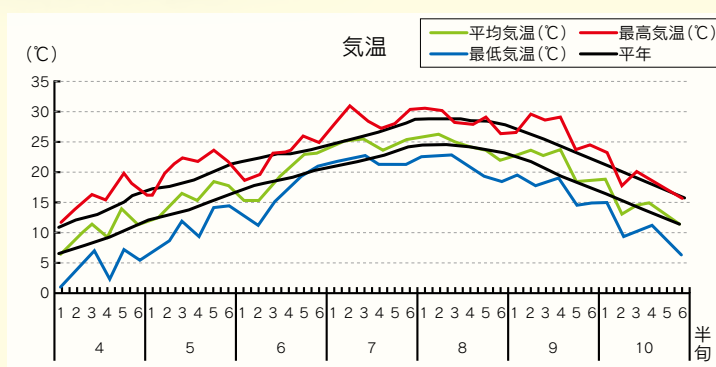
令和4年の収量構成要素

【気象経過と生育概況】

育苗期間である4月は気温が高く、日照時間が多かったため、苗の生育は早まり、徒長ぎみとなりました。

その後、田植直後の低温や6月の日照不足により、茎数がかなり少なく推移し、穂数もかなり少なくなりました。

一方、1穂着粒数は多くなりましたが、登熟期である8月の日照時間が少なく登熟が緩慢となったため、登熟歩合の低下をまねきました。



令和4年の気温の経過（4月1半旬～10月6半旬）

◆来年度に向けて

【栽培管理】

毎年極端な気象変動が起こっており、その影響を最小限にするためには、基本技術を確実に実施することが重要になります。苗の種類や育苗様式に応じた適正な育苗管理の実施、適切な時期・植付本数・植付深での田植作業、生育ステージや気象条件に適応した水管理等の耕種管理を今一度見直しましょう。

【病虫害防除対策】

今年度穂いもちが発生したほ場では、苗による持ち込みが主な発生源となっています。特に育苗期の防除を徹底することでほ場への持ち込みを防ぎましょう。

今年度は斑点米カメムシ類の発生量が多くなりました。ほ場及びその周辺の、雑草（ノビエやカヤツリグサ科雑草）の防除を徹底することで、薬剤の効果を高めましょう。

花き（りんどう）

◆生育概況

8月出荷「あきたの青」は、昨年度と比較すると3～5日程度遅い出荷盛期となったものの、概ね需要期に出荷されました。しかし、8月の豪雨により被害を受けたほ場も多く、出荷量は前年を下回りました。

病虫害は黒斑病、花腐菌核病の発生が多くなりました。



◆来年度に向けて

老齢ほ場の増加により、花段数の減少・単収の低下が進んでいます。自家の労働力にあった適正な面積での栽培と改植を合わせて行い、安定的な収量、収入の確保を目指しましょう！

来年度に向けて

野菜

<ねぎ> ～軟腐病対策について～

◆生育概況

8月の大雨により、栽培を断念しなければならないほ場もあったほか、軟腐病の多発、生育不良や土上げができないことによる白根不足等、栽培管理に苦慮しました。

◆来年度に向けて

軟腐病菌は被害残渣や雑草の根域土壤中で生存し、主に土寄せなどの管理作業や害虫の食害痕などの傷口から侵入します。薬剤による防除のほかに耕種的な対策を再度、確認しましょう。

多発しやすい条件	次期作に向けた対策
連作	イネ科やマメ科など、ほかの作物との輪作
多肥栽培	多肥栽培を避ける(窒素施肥量は20～25kg/10a) 土壌養分分析に基づいた施肥設計
夏期の多雨	サブソイラー等の施工による耕盤破砕(地下浸透)と 明きょ等で停滞水をほ場外に流し出す(表面排水)
分岐部にできる傷口	夏期高温時はなるべく土寄せしない 土寄せは分岐部にかかるまで高くしすぎない 病原細菌の侵入口となる白絹病や害虫の防除



カットブレーカー施工による排水対策



※スーパーセル苗とは
通常の2倍の育苗期間を設けた干ばつに強い苗です。

<キャベツ> ～根こぶ病・虫害について～

◆生育概況

8月の大雨による冠水により、枯死したほ場があったほか、根こぶ病の多発やヨトウムシ類等の虫害による品質低下が目立ちました。

◆来年度に向けて

排水対策や病虫害防除を徹底しましょう。当課では、次年度普及課題解決実証ほの設置による、新育苗技術（スーパーセル苗）の向上を目指します！

果樹（日本なし）

◆生育概況

「幸水」の満開期は5月3日で、ほぼ平年並でした。果実肥大は、6～7月は良好に推移しましたが、8月の多雨と日照不足の影響で、収穫期には平年並となりました。

また病虫害では、紅粒がんしゅ病の発生が多くなっています。

◆来年度に向けて

花芽の形成状況は平年並程度の園地が大半と推察されます。整枝せん定を丁寧に行い、高品質安定生産と耕種的防除に効果的な「日当たりと風通し」の良い樹形作りを心がけて下さい。また枝の切除痕は必ず塗布剤で保護して下さい。



↑ 紅粒がんしゅ病

～新農業士紹介～

〈青年農業士〉

いせ はやと
伊勢 隼人

◆経営概要

しいたけ 115,000菌床
まいたけ 10,000菌床



菌床しいたけの規模拡大を図りながら、新規部門として、まいたけを導入。地域でもトップクラスの規模で経営を展開している。

地域における菌床しいたけの生産振興を図るため、品質管理を徹底した菌床の製造と販売を実践しているほか、消費者向けのプロモーション活動にも積極的に取り組んでいる。

地域農業を担う青年農業者のリーダーとして活躍している。

〈女性農業士〉

おおつ ようこ
大津 陽子

◆経営概要

水稻 333a、WCS 779a
ブルーベリー 10a、
キャベツ 5a



水稻及び稲WCSのほか、ブルーベリーとキャベツの生産に取り組んでいる。WCS部門では、同地域内の乳牛農家との取引により、耕畜連携を確立している。

さらに、能代市内の菓子店等へ販売しているブルーベリーの取扱量は年々増加しており、経営の安定化へとつながっている。

地域振興を担う女性農業者として、さらなる活躍が期待される。

山本地区農業ビジネス交流会(YAMABICO)会員募集中！



令和4年3月に設立した若手農業者集団、

「YAMamoto AgriBusiness Interactive COmmunity」

略して「YAMABICO」です！現在は「白神ねぎ」に取り組む会員が多く、共に切磋琢磨しながら、農業経営について学んだり、販路拡大のために様々な活動に取り組んでいます。会員募集中です！

令和5年10月 インボイス制度が始まります！

●インボイスとは

売手が買手に対して、正確な適用税率や消費額等を伝えるものです。

具体的には、現行の「区分記載請求書」に「登録番号」、「適用税率」及び「税率ごとに区分した消費税額等」の記載が追加されたものをいいます。

●インボイス発行事業者となるためには、原則令和5年3月31日までに登録申請が必要です！

- ・インボイスを発行するためには、インボイス発行事業者の登録申請が必要です。登録は課税事業者が受けることができます。
- ・免税事業者の方も、ご自身の事業形態に合わせて、インボイス発行事業者の登録を受けるかをご検討ください。

●登録申請手続きはe-Taxをご利用ください！

- ✓ e-Taxで登録申請いただくと、書面よりも早期に登録通知を受けることができます！
- ✓ 電子データで登録通知を受け取れるため、紛失のリスクがありません！

インボイス制度特設サイト

制度の概要や申請手続き、免税事業者の方への情報も掲載中です！

インボイス制度
特設サイト

